

東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第1学年 社会科学学習指導案		授業者	金城 和秀
		授業学級	1年A組 (男子18名, 女子17名)
授業テーマ	ソーシャル&エモーショナルラーニング (SEL) の視点を取り入れた社会科学授業の実践		

1. 本時の目標

本時は、単元の最後のまとめとして、SDGsの視点からアジア州の地域的課題を見出し、解決策の提言や提案の際にSELの5つのコンピテンシーの中の「他者を理解する能力」を意識させ、それに対して生徒自身何が出来るかという視点を持たせることでSELのコンピテンシーの「責任ある意思決定」をさせるようにした。

2. 本時の位置づけ

本時は中学校社会科学地理的分野大項目B「世界の様々な地域」の中項目(2)①アジア州を指導内容として構成した全7時間の中の最後の時間である。

単元の導入では身近な財やサービスからこれから学習するアジア州に興味を持たせ、日本と経済的相互依存関係であることつかませる。そこからアジア州の各地が経済発展した要因に疑問を持たせ、ジグソー法でアジア州の各地域の調べ学習・発表を行わせる。この際、発表補助資料を作成させるときにMicrosoft teamsを活用し、班の中で共有作業を行わせて完成させる。

アジア州の地域的特色を理解したのち、単元のまとめとしてSDGsの視点からアジア州の地域的課題について考えさせるのが本時となる。

3. 本時の概要

(1) アジア州の地域的課題の追究

(導入) アジア州の地域的課題について考える。ロールプレイを行い、様々な対場の視点から事前に考えた解決策や提言の内容を再考する。

(展開) 相手の感情を考えた議論について感じたことをフィードバックする。

(まとめ) アジア州の持続可能な開発や地域的課題の解消について考える。

(2) 情報活用能力との関連

-1 情報活用能力をどうとらえるか

社会科学として、情報活用能力は教科の特性柄、多岐に渡り、広範囲にわたるものと考えられる。社会科学は内容教科として、社会的事象を理解したり、考えたり判断したりする際には、グラフや資料(史料)などが不可欠である。それも複数のものからどのようなことがわかり、そしてどのような課題があるのか。また、自らの意見や主張を他者に伝える際にも、グラフや資料(史料)の提示や説明するなどの資質・能力が必要となる。

これらのことから、社会的事象を理解するための「情報活用能力」と他者にわかりやすくまた誤解のないように説明するための「情報活用能力」と大きく分けることができると考えている。

本年度の研究では後者の情報活用能力を意識して単元を構成した。

-2 体系表に照らしてみると

学校研究主題「情報活用能力を育むモデル単元の開発～資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して～」に対し社会科学としては、文部科学省が平成27年にまとめた「21世紀を生き抜く児童生徒の情報活用能力育成のために」において示された概念図を参考にして、今年度は「情報活用能力の実践力」について実践を行うこととした。「情報活用能力の実践力」は、①『課題や目的に応じた情報手段の適切な活用』をもとに、②『受け手の状況などを踏まえた発信・伝達』と③『必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造』がある。この①～③の要素を単元内に意図的に位置付け、情報活用の実践力の育成を図ることとした。

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉 今日の学習の流れについて理解する。</p> <p>アジア州の地域的課題について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これから行うロールプレイについて簡単な説明を行う。 ・前時のジグソー班でグループを形成させる。 ・自分たち追究するアジア州の地域的課題についてグループで共有する。
<p>〈2. 展開〉</p> <p>(1) ロールプレイを行い、様々な対場の視点から事前に考えた解決策や提言の内容を再考する。</p> <p>☆ロールプレイの実施☆</p> <p>①班で考えた解決案や対応策について班員全員で確認する。</p> <p>②課題によって得する人や損する人がそれぞれの立場にたって意見を主張する。</p> <p>③「感情マーク」を机上の示し、相手の感情を考えた内容でフリーに話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に考えた内容を参考にして、その意見を様々な立場から見た時、どのような意見がでるのか発言させ、ロールプレイをスタートさせる。 ・それぞれの立場になりきることを留意させる。 ・事前に作成した相手の感情をレーダーチャートで考え、その感情を参考にした意見発表や主張することを意識させる。 ・机の上に「感情マーク」を出させ、常にどのような感情を抱いているのか可視化させる。 ・時間に余裕を持たせ、フリーに話し合う時間帯を作る。
<p>(2) 相手の感情を考えた議論について感じたことをフィードバックする。</p> <p>感情を考えた発表についてどのように感じたか、それぞれの立場で意見を言い合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の調べ学習の結果、自分の立場どのような感情でどのような意見だったのか、簡単にフィードバックをさせる。 ・他者の感情を考えた意見の主張はどのような効果があるのか考えさせる。 ・社会的な課題において、様々な人の利益や意見が絡み合い、理論的に正しいことでも受け入れられない時もあることを理解する。
<p>〈3. まとめ〉 アジア州の持続可能な開発や地域的課題の解消について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア州の地域的課題に対して、SDGsの17ゴールを参考に、重視しなくてはいけないことや新たなゴールの項目を「18番目のゴール」として、イラストとキーワードを考えさせる。 ・目標設定の理由(どうしてそのゴールにしたのか、今後どのようなことが必要なのか)をレポートにまとめる。

